

1 学校として目指す授業

児童がすすんで学び、友達や地域、教材と対話的に学ぶことを通して、自分の学びを創る授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・国語では、全領域で国の平均を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の領域が大きく全国平均を上回っており、引き続き各教科で対話的な学びの視点からの授業改善を図り、指導していく。 ・算数では、全領域で全国の平均を上回っている。しかし、「測定」「変化と関係」「データの活用」で東京都平均を下回った。問題解決に必要な数量の関係に着目する力を育てていく必要がある。 ・理科では、全領域で国の平均を上回っており、継続して進んで学べるようにしていく必要がある。	・睡眠時刻にばらつきは見られるものの、比較的規則正しい生活を送ることができている。 ・学校の授業時間以外の勉強時間は「3時間以上」と「全くしない」と回答した児童の割合がともに全国、東京都の平均を上回っており、二極化がすすんでいるといえる。 ・授業内におけるGIGA端末の活用は、「ほぼ毎日」と回答している児童が多く、積極的な活用が行われているといえる。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（小学校4～6年生）

・国語、社会、算数、理科のいずれの授業内容も80%以上が「よくわかる」「どちらからといえばわかる」と肯定的に回答しており、特に理科は理解度が高い傾向が見られた。
・学習に向かう主な理由として、「分かることやできることが楽しいから」といった内発的な要因に関する割合が高い。また、分からないことは「他の人や先生に質問して解決している」、「他の人と相談して、考えを深めるようにしている」など、他者との交流を通じて学ぶ意識に関する数値も高い。学校外での学習においても、「疑問をもったことを調べるようにしている」といった自律的な学習行動に関する数値が高い。
・自分の学力に応じたコースに分かれて算数の授業を受けることについて、約9割が肯定的に評価している。実際に「よく分かるようになると思う」と回答した児童も非常に高い割合を示していることから、算数における学習形態について期待が大きいことが伺える。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストの意識調査において、「できないことができるようになった」きっかけで「友達に教えてもらった」と回答した児童が最も多かった。今後も考えたことを伝え合ったり、教え合ったりする時間を確保し、対話的な学びを促進する。
・体力や運動能力の向上について、「自分なりの目標を立てている」と回答した児童の割合が少なく、体育について見通しをもって粘り強く取り組むことに課題が見られる。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・課題を自ら発見したり、課題解決に向けた方策を自分で考えたりすることが苦手な児童が多く、課題解決の方法を身に付けさせる必要がある。
・友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることが苦手な児童が多く、対話的な学びを充実させていく必要がある。
・ICT活用において、教師の指示による活用から、自分自身が学びやすくなるためのGIGA端末の活用へ進めていく必要がある。特に、児童が自分のペースで理解しながら学習を進めるようにしたり、児童自身が必要を感じた際に情報収集できるように環境整備したりしていく。

4 学校全体の授業改善の視点

児童が思わず学びたくなったり、話し合いたくなったりするような問いを引き出す指導の工夫

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	平仮名やカタカナ、漢字が文章の中で使えるように、作文や日記等の指導を通して、基礎基本の定着を図る。自分の考えを表現するため、ペア交流の時間を日常的に取り入れる。簡単な話し合いの型を提示し、小グループでの発表や考えを伝え合う活動を増やす。				授業の導入等を活用して基本的な計算方法を身に付ける。数学的活動を通し、見方、考え方を働かせ、表現する場面を設定する。GIGA端末を効果的に活用する。授業の振り返りをノートに書く。				生活経験が少ない児童がいることを考慮し、植物や生き物と関わる活動、昔遊びなど体験活動を意図的に組み込むことで学びの充実を図る。		少人数で発表したり、鑑賞で感じたことを発言したりする活動を設定し、音楽から感じたことを体や言葉で表現する楽しさを味わわせる。		制作活動の中で、造形的な視点で自他の表現を共有する機会を増やし、課題解決に繋がる発想力や技能を育成する。				ねらいに応じた遊びの中で、様々な動きに楽しんで取り組めるように、場やルールに工夫のある活動を数多く行う。				教材の登場人物の心情や問題場面を考えることを促すことができるよう、発問を工夫する。	
中学年	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしたり、表現の仕方を工夫したりして、ペアや小グループで交流することができるようにする。また、図書や朝読書の時間を活用し、読書習慣の定着を図る。		資料から気付いたことを共有したり、考えを広げ深めたりするために、対話的活動を意図的に増やす。社会的現象を自分事とするために、まとめの段階では、自分の考えをつくることを重視する。		授業の導入時に1分読み上げ計算を行い、基本的な計算や公式を確実に身に付ける。文章問題等の立式の際、事象を図化したり数直線で表したりと、考えを説明する場面を意図的に設ける。授業の振り返りをノートに書く。		経験などを思い出しながら根拠を明確にして予想し、授業と関連付けられるよう話し合い活動を効果的に取り入れる。理解を深めるために、考察をする時間では結果から分かったことや考えたことを書く時間と共有する時間を十分に取る。				曲想についてや鑑賞などで感じたことを伝え合う機会を増やし、多様な価値観に触れる時間を充実させる。デジタルワークシートや録音、録画機能などを用いて、表現の幅を広げるきっかけとする。		制作活動の中で、造形的な視点で自他の表現を共有する機会を増やし、課題解決に繋がる発想力や技能を育成する。また、対話型鑑賞法を用いて、伝え合う楽しさを育てる。				体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、体の基本的な動きを繰り返し取り組む活動や全体で動きを共有する活動を取り入れる。動いて考えたことを次の活動で生かせるように授業設計をする。				内容に応じてGIGA端末を活用し、他者と対話したり協働したりしながら、さらに主体的に自分の考えを深める場を設定する。また、自己を見つめる時間を十分に設ける。	
高学年	主張と根拠を明確にし、図表を効果的に用いて自分の考えを説得力をもって書けるようにする。またGIGA端末を活用し、互いの文章を読み合い、表現を工夫したり、吟味したりする中で友達の文章のよさを見つけ、自分の表現を深められるよう、協働的な学習の時間を設定する。		資料提示を工夫し、児童の気付きや疑問、予想から問いを見いだして学習計画を立てる時間を確保し、学習の見通しを児童がもてるようにする。調べたことをもとに考えや時間の際、自分の考えをもち、対話的な活動を通して考えを深められるようにする。		授業の導入時に1分読み上げ計算を行い、基本的な計算や公式を確実に身に付ける。単元ごとに基礎基本の定着を図る時間を確保する。自分の考えと友達の考えを比較したり、交流したりする場面を実態に応じて設定し、幅広い考え方をできるようにする。		児童自ら問題を発想できるような事象を導入で提示し、その問題を解決していく授業展開を取り入れる。また、自分の意見をしっかりもたせた上で、予想や考察を交流させることで、多様な考えを基に結論を導き出せるようにする。				鑑賞や音楽づくりで伝え合う時間を充実させる。合奏の取り組みで、音源を聴きながら学び進めたり、少人数で合わせたりするタイミングを自分のペースで選んだりできるようにする。		制作活動の中で、造形的な視点で自他の表現を共有する機会を増やし、課題解決に繋がる発想力や技能を育成する。また、対話型鑑賞法を用いて、伝え合う楽しさを育て、自身の考えを深める機会を増やす。		ミシンや裁縫道具、調理器具などを活用する実践活動を積極的に取り入れ、生活に必要な道具の扱い方に慣れ、技能の向上を図る。日常生活と結びつけながら学習を進めていくことで、必要感をもって学習に取り組むことができるようにする。		単元に応じてGIGA端末を効果的に活用しながら自分なりの目標をもって運動に取り組むことができるようにする。また、自分の考えたことを他者に伝える場面を設定し、対話的な学びを促す。		目的をもって自分の考えや思いを伝える機会を増やし、相手意識をもった言語活動を充実させる。音声の聞き取りやパワーポイントを使ったスピーチなど課題に対して、有効なGIGA端末の活用方法を検討したり、実際に使ったりしていく。		内容に応じてGIGA端末を活用し、友達の考えと比べながら自分の考えを深める場面を意図的に設ける。自己を見つめる時間を確保する。	

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施